

IASB/FASB Board Meeting Flash – Insurance Contracts

2014年3月に開催された保険契約に関する IASB会議の概要



2014年3月、IASBは、2013年に公表した公開草案「保険契約」(ED/2013/7)について、以下の2つの領域に焦点を当てて再審議を行いました。

- 契約上のサービス・マージンのアンロック
- 割引率の変動による影響を表示するための、その他の包括利益(OCI)の使用

1. 契約上のサービス・マージンのアンロック

(1) リスク調整の変動

IASBは、2013年に公表した公開草案「保険契約」(ED/2013/7) (以下、「2013年公開草案」)において、保険契約に係る見積将来キャッシュフローの現在価値の変動(現在と過去の見積もりの差)のうち、将来の保険カバー及びその他のサービスに関連する将来キャッシュフローの現在価値の見積もりの変動については、契約上のサービス・マージンの調整として会計処理することを提案しています(契約上のサービス・マージンのアンロック)。一方で、リスク調整の変動については、当期純利益を通じて認識することを提案しています。

リスク調整の変動について当期純利益を通じて認識する提案については、公開草案に対するフィードバックにおいてこれを支持するコメントがほとんどなく、市場関係者の大部分が、将来カバーに関連するリスク調整の変動もまた、契約上のサービス・マージンの調整として会計処理する方が望ましいと考えていました。

そこで、IASBスタッフは、以下を提案しました。

- 保険契約の当初認識後において、将来のカバー及びその他のサービスに関連する将来キャッシュフローの現在価値の現在と過去の見積りの差について、契約上のサービス・マージンをアンロックする(公開草案における提案の再確認)。
- 将来のカバー及びその他のサービスに関連するリスク調整の変動についてもまた、契約上のサービス・マージンをアンロックする。ただし、契約上のサービス・マージンがゼロを下回ることはない。この結果、現在及び過去の期間に提供されたカバー及びその他のサービスに関連するリスク調整の変動は、当期純利益を通じて認識される。

IASBは、スタッフの提案に同意しました。

(2) 過年度に認識済みの損失の会計処理

2013年公開草案では、契約上のサービス・マージンがゼロとなった後の会計処理は以下のようになります。

- 将来キャッシュフローの現在価値の見積りの不利な変動は、当期純利益を通じて認識する。
- 将来のカバー及びその他のサービスに関連する将来キャッシュフローの現在価値の見積りの有利な変動は、契約上のサービス・マージンとして認識する。

この場合、契約上のサービス・マージンがゼロとなり、過年度に将来キャッシュフローの見積りの不利な変動について損失を認識していた場合でも、その後に将来キャッシュフローの見積りの有利な変動が生じた場合には、損失を振り戻すのではなく、契約上のサービス・マージンが計上されることとなります。

この点について、多くのコメント回答者(特に規制当局)が、契約上のサービス・マージンを再計上する前に過年度に計上した損失を振り戻す方が、契約上のサービス・マージンをより適切に表示すると思われました。

IASBスタッフは、公開草案に対するコメントについて検討し、以下を提案しました。

- 過年度に損失を認識した後、将来のカバー及びその他のサービスに関連する将来キャッシュフローの現在価値の見積りの有利な変動が生じた場合には、当該有利な変動は、過年度に認識した損失のうち将来のカバー及びサービスに関連する損失を上限として、当期純利益を通じて認識しなければならない。

IASBは、スタッフの提案に同意しました。

2. 割引率の変動による影響を表示するための、その他の包括利益 (OCI) の使用

(1) 割引率の変動による影響の表示の選択

2013年公開草案は、割引率の変動による影響をその他の包括利益(OCI)を使用して表示することを要求しています。この提案は、割引率の変動の影響をOCIに別個に表示することにより、他の変動と区別し、企業の業績の透明性を向上させることを意図していました。

しかしながら、公開草案に対するコメント回答者の多くは、OCIの使用を強制ではなく、任意とすべきであると提案していました。

IASBスタッフは、公開草案に対するコメントを分析・検討し、以下を提案しました。

- 割引率の変動による影響を当期純利益又はOCIを通じて表示することを、会計方針の選択とする。
- 会計方針は、ポートフォリオ内のすべての契約に対して適用する。

IASBは、スタッフの提案に同意しました。

(2) 割引率の変動による影響の開示

割引率の変動による影響を当期純利益又はOCIのいずれかで表示する選択肢を認めることにより、企業間の比較可能性が損なわれる可能性があります。そこで、IASBスタッフは、利息費用の構成要素の分析に関する以下の開示を提案しました。

- すべての保険契約ポートフォリオについて、包括利益合計に含まれる利息費用について、少なくとも以下の構成要素に分解した分析の開示
 - 現在の割引率を用いて算定された保険契約負債に係る利息費用
 - 当期中の割引率の変動による保険契約の測定額への影響
 - 当期に契約上のサービス・マージンを調整する、将来キャッシュフローの見積もりの変動の現在価値を、保険契約の当初認識時の割引率と現在の割引率のそれぞれを用いて算定した場合の差
- 割引率の変動の影響をOCIを用いて表示する選択をした保険契約ポートフォリオについて、包括利益合計に含まれる利息費用について、少なくとも以下の構成要素に分解した分析の開示
 - 当期純利益に計上された、保険契約の当初認識時の割引率を用いて算定された保険契約負債に係る利息費用
 - 当期におけるOCIの変動

IASBは、スタッフの提案に同意しました。

3. 今後のスケジュール

2014年3月のボード会議におけるIASBの決定は、有配当契約は対象としていません。IASBは、有配当契約については将来再審議する予定であり、その後には有配当契約以外の契約についての決定を見直す必要があるか否かを検討するとしています。

2014年4月のボード会議では、以下を審議する予定です。

- 保険契約収益の表示
- コメントを募集していないその他の論点に関する再審議の方法

IASBスタッフは、IASBが保険契約に関する再審議を2014年中に完了し、2015年には最終基準書を公表する予定であると述べています。

編集・発行

有限責任 あずさ監査法人

IFRS本部 IFRS Information Desk

ファイナンシャルサービス本部

e-Mail: azsa-ifrs@jp.kpmg.com

ここに記載されている情報はあくまで一般的なものであり、特定の個人や組織が置かれている状況に対応するものではありません。私たちは、的確な情報をタイムリーに提供するよう努めておりますが、情報を受け取られた時点及びそれ以降においての正確さは保証の限りではありません。何らかの行動を取られる場合は、ここにある情報のみを根拠とせず、プロフェッショナルが特定の状況を綿密に調査した上で提案する適切なアドバイスをもとにご判断ください。

© 2014 KPMG AZSA LLC, a limited liability audit corporation incorporated under the Japanese Certified Public Accountants Law and a member firm of the KPMG network of independent member firms affiliated with KPMG International Cooperative ("KPMG International"), a Swiss entity. All rights reserved.

The KPMG name, logo and "cutting through complexity" are registered trademarks or trademarks of KPMG International.